

雪洞

糸魚川勤労者山岳会

会長 青木 満 磨
TEL 025-552-9901



(2094)No.44 発行 2019年8月18日



山行記

★山域・山名=会山行山形秋田・鳥海山 2236m

★山行日=2019年8月3-4日(土日)

★天候=3日/曇り、ガスのち晴れ 4日/晴れ

★山行者=内山(報告)、大瀬、田中、渡辺久、渡辺悦、他1名

■8月3日(土)・・・

▼5時糸魚川出発。能生で待つ田中夫妻と合流。天気心配もなく、一路遠い山形県の鳥海山に向かうこと6名、元気×2。会話も弾み、5時間半ほどの長い時間車での移動。休憩を取りつつ、エコノミー症候群にならないように足を動かす。

▼10時35分、登山口の湯の台Pに着く。既に満車状態。すったもんだしていたら、一台の車が発進したので素早くその場をゲット。支度を済ませ10時45分に出発する。歩き出すと後方より「滝の小屋には20分で着くから」と親子の会話が聞こえる。

▼ブナ林に囲まれた古い石畳を横に敷かれている上を歩くこと20分ほど。滝の小屋に着く。水分補給してここからが本格的な登山が始まる。歩き出してからすぐに沢の水が流れていて何とも自然。あえて水の中で足を滑らさないように気を付けて歩く。次は八丁坂から河原宿小屋を目指す。

▼チングルマ、ニッコウキスゲ、コバイケソウなどの群落。目の前の外輪山の雪渓が見ごと。万年雪の溶け水を火照った顔につけて見る。指先が切れそうなくらいの冷たさ(^ω^)・・・気持ちよかあっ〜☺。

▼大草原の自然の中で昼食、休憩。程よく風も

当たり最高でした♡♥。草原を守る為に、「マナーを守ってください」とロープが張られていました。サア〜大雪渓、小雪渓が待っています。元気を出し大雪渓に足を一步×2慎重に歩く。「夏道に入ってもいいよお〜」とリーダーの声に夏道を歩き、次は小雪渓。ここは横切るのでさほど怖くはなかったが、やはり慎重に歩く。▼小雪渓を登り切れれば鳥海山屈指の急坂・アザミ坂。ここで落石があり、「あっ！落×2」。気を付けて登り切ると外輪山の伏拝岳、隣の新山(鳥海山山頂)が目の前に姿を現す。「明日の朝、あの新山でご来光を見るんだよ〜」の声に、胸が躍る☺♥♪気を引き締め、頂上参籠所に向かう。

▼伏拝岳から七高山を前に見て、稜線歩きで、高山植物ならではの可愛い花に癒されながら



チョウカイフスマ(内山 8/4)

チョウカイフスマ、ホソバイワベンケイ、イワブクロ、イワギキョウなどを見ながら歩く。このような道ならいいな～と思いながら歩く。

▼目に前に、頂上参籠所（御室小屋）が見えた。「今夜泊まるとこだよ」と。そこまでに行くには大変。大きな石やら急坂やらで「三点確保」。午後5時ころ頂上参籠所に着く。受付をしている間に、自分と田中さんの旦那さんは御朱印を頂き、大物忌神社に手を合わせる。

▼部屋は2階で、入るには急な梯子を上らなくてはいけない。上がって見たものの大人数でびっしり。そこでリーダーから「個室があるようだけど…」の声。受付に問い合わせる。運よく2部屋ゲットする。これで安心して休めることが出来る。ホントに良かった♪。荷物の整理をしてから食事に向かう。

▼小屋の主人の話では140名程の登山者が泊まっているとのこと。食後の片付け、ポリ容器の処理方法などの説明があり、明日は日の出、

影島海山も見られるでしょうとの話。「日の出はどこで見ても同じです」と言われたのですが、違いますよね～と自分は思います。

▼食後、外に出て夕日を待つ。誰かさんは珍しくビールも飲めず、大好きな食事も…。「あれまっ？どうした？」。本人は「疲れたあ～」の一言。長い道中のドライバーのこともあり、心底疲れたのだな・・・と(；_；)。

▼風当りも冷たく感じて部屋に戻ることに。辺りを気にすることなく快適な個室で眠りにつく。

夜中の11時50分頃、目が覚めて静かに外に出る。空を見れば満天の星☆☆☆。天の川まで綺麗に見え、一人感動に浸ること10分程(^ω^)…。危険を感じ部屋に戻る。疲れも飛ぶくらいにぐっすり眠って朝を迎える。

《報告・写真 by 内山》

【鳥海山二日目(8/4)は次号に続く】



《写真左》鳥海山(新山)山頂にて8/4
《写真下》鳥海山山頂からのご来光8/4

